

3月の歴史カレンダー

★3月に何が起きたか

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
熊本県、水俣湾埋立地の利用計画の中核である「水俣湾環境センター（仮称）」と水俣市事業の水俣病資料館を併設する基本構想をまとめる（1990/H2）	環境省が若い世代に水俣病事件の教訓を伝えていこうと「水俣病経験の普及啓発セミナー」を開催（東京都内）（2004/H16）	◆水俣公害防止事業試験浚渫工事開始（1983/S53） ◆水俣病資料館の入館者が50万人突破（2006/H18）	熊本県水俣湾魚介類対策委員会、水俣湾内の仕切網を段階的に撤去する方向で検討を行うことを確認。湾内の指定魚を16種から10種へ減少（1993/H5）		「市民の会」、設立後初の市民大会を市文化会館で開催一約1,000人が参加、「水俣病の早期解決への積極的関与、チッソへの特別の支援措置」を国に求めることなどを決議（1993/H5）	水俣市立病院附属病院湯之尻病院（リハビリテーションセンター）開院。（1965/S40）
水俣芦北地域桜等植樹推進協議会（会長：水俣市長）、二回目の植樹式（メイン会場＝御立岬公園）（1998/H10）	水俣芦北地域桜等植樹推進協議会主催により、水俣病で疲弊した地域社会の再生・振興を図ろうと、水俣市や芦北郡3町の地域住民らが各地区（70ヶ所）で一斉に桜を植樹（1997/H9）			水俣病資料館「語り部の会」の7人、長崎平和推進協会の語り部4人と長崎原爆資料館で交流（2000/H12）	「水俣病経験の普及啓発セミナー」で語り部の金子スミ子さんが体験談を語る（東京六本木：オリパホール）（2005/H17）	◆水俣病患者、遺族ら一〇三人、チッソ幹部を殺人罪、傷害罪で熊本県警に告訴、告発。（1975/S50） ◆水俣市鮮魚小売商組合、「水俣湾内で獲れた魚は買わない、売らない」と湾内魚介類の不売買を決議（1990/H2）
水俣市鮮魚商組合、水俣湾内で取れた魚の不売買を決議。（1990/H2）	国立水俣病総合研究センターと新潟大脳研究所の共同チーム、メチル水銀が母乳を介しては乳児にはほとんど移行しないことを発表（2000/H12）	◆ベトナム啓発セミナーに患者らが参加する（2001/H13） ◆熊本県が職員の理解を深めるため水俣病問題啓発セミナーを開催（県庁）（2006/H18）			春分の日 熊本水俣病裁判第一次訴訟判決、原告勝訴。（1973/S48）	乙女塚で水俣病市民会議会長の日吉フミコさん（88：水俣市）が建てた「不知火海の水銀汚染を悼む碑」の除幕式（水俣市互助会主催）（2003/H15）
		環境庁・中国国家環境保護総局の共催による「日本・中国水俣病経験の普及啓発セミナー」が北京で開かれる－水俣病資料館語り部や水俣市民代表、国、熊本県、水俣市の行政代表らが水俣病の経験を報告（2000/H12）	チッソ水俣工場、アセチレン法塩化ビニール製造停止。（1971/S46）	◆市水俣奇病研究委員会、水俣市八幡の漁業者を水俣病と決定。これ以後、水俣川河口付近で発病者が相次ぐ。（1959/S34） ◆水俣市湯の尻病院内に設置され胎児性水俣病患者らの学び舎だった、水俣市立第一小学校、水俣市立第一中学校の湯の尻分校閉校式（1999/H11） ◆新日本窒素労働組合（第一組合）が解散。58年間の歴史に幕（2004/H16）	◆水俣高校演劇部、市文化会館で、水俣病をテーマとした創作劇「出発（たひだち）～胸をはって～」を上演（1996/H8） ◆鹿児島県、胎児性水俣病患者とみられる出水市の男性を水俣病と認定（2000/H12）	水俣病裁判（第二次訴訟）判決、原告勝訴、双方控訴（1979/S54）
江田環境副大臣が水俣市を訪れ患者と意見交換（2006/H18）	水俣病第三次訴訟判決、（行政による認定者を除く）原告勝訴－はじめて行政の責任を認める－被告、原告双方が控訴。（1987/S62）	◆「熊本県水俣病患者審査会設置条例」公布。（水俣病患者審査会を改組）（1964/S39） ◆熊本県の水俣湾等公害防止事業完了－総事業費48.5億円を投入（1990/H2）				